

『子どもを真ん中にして、みんなでつながって幼稚園の生活をつくろう』

園長 若槻 容子

園庭の木々も一斉に柔らかな若葉を芽吹かせ、新緑の季節を迎えました。ユスラウメ、アンズの実も日に日に丸みを帯び、今年の食べごろはいつかしらと待ち遠しいこの頃です。

青い名札に変わりすっかり大きい組の表情になった5歳児。健診のときにも、初めてのことで緊張していた3歳児に「怖くないよ」と声を掛けていた姿がありました。年度当初に時差登園をし、5歳児が新入児のお世話をしたことで小さい組を思いやる気持ちを持ち、3歳児は5歳児に憧れをもつきっかけになっているようです。

2年保育と3年保育の子どもたちの生活が始まった4歳児。進級児は、新しい友達が急に増えた戸惑いを見せていましたが、同じ色のバッチ、同じクレヨン、「同じ」ということがキーワードとなって新たな出会いを受け止めています。それぞれ自分が作ったこいのぼりを手にして園庭で遊ぶ姿は、すっかり仲間のようです。

ある日のこと、オタマジャクシがたくさん泳いでいる「なかよし池」に多くの4歳児の姿がありました。進級児も入園児も一緒になって、「ここも（オタマジャクシの）幼稚園だね」「（水面に落ちた）花びらをツンツンして遊ぶだね」などと、夢中になって見つめています。そろそろ片付けて保育室に戻る時間になった頃、保育室から「お弁当にしよう」と先生の声が聞こえてきました。名残惜しそうにしつつも、一人、二人と保育室に戻っていきます。でも、入園児のAちゃんは一人になってもオタマジャクシを見ている。どうするのかな…。このまま見ているのかな…。するとAちゃんは保育室の様子が気になり始め、小さな声でオタマジャクシに「バイバイ」と告げて保育室に走っていきました。自分から帰っていく姿から、園の中に安心できる



「自分の居場所」ができていいることを感じました。

幼稚園というのは、子どもたちが集団生活をする初めての場所です。いろいろな考えをもつ人が関わって、時には思いがぶつかり合いながら、よりよく生活をするためにはどうしたらいいのかを子ども自身が学んでいきます。そのためには、自分が暮らす幼稚園という場所が「自分の居場所」として大好きになることが大切です。家庭以外に自分の居場所があることは、社会の一員として認められ、自らの力を発揮することにつながります。

父母の会総会で、新たな役員の方が承認され、早くも子どもたちの笑顔のためにと活動を始めていただいています。子どもたちの園生活が安心感に満ち、「明日も楽しみだな」と期待が膨らむような幼稚園の暮らしを保護者の皆様と一緒につくっていききたいと思います。

季節のはなし 「八十八夜」

そろそろ新茶が出回る季節です。新茶と言えば思い出すのが「夏も近づく八十八夜…」というあの歌。そもそも八十八夜っていつの日がご存じでしょうか？立春の日から数えて八十八日目、今年5月2日です。八十八夜の数日後には二十四節気という「立夏」になることもあり、昔の人びとはこの時期を、種まきや田植えの準備、茶摘みなど「夏の準備を始める目安」ととらえていました。

「末広がり」の姿をしていることから、幸運を呼ぶとされてきた「八」の字。その「八」の字が二つ重なった「八十八夜」は、それだけに縁起のいい日と考えられていました。また、「八」「十」「八」の3つの字を組み合わせると「米」という字になるため、とくに農業に携わる人びとに大切にされてきたのだと言われます。





- <3歳児> ○興味のもてるものや気に入った場所を見付け、安心して過ごす。
- 教師と一緒に自分の身の回りのことをやってみようとする。

モルモットのしろくんに餌をあげたり、教師と園庭の桜の花びらを集めたりするなど、自分のペースで興味をもった場所やものに関わりながら、少しずつ気持ちがほぐれてきている子どもたち。連休明けで緊張する姿もあると思いますが、教師と一緒に体を動かしながら、それぞれのペースに合わせて幼稚園に親しみや安心感を感じられるようにしていきます。

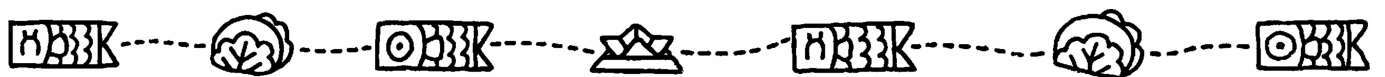
また、自分のマークやロッカーの場所も覚え、身支度を自分なりにやってみようとする姿が見られます。いよいよ始まるお弁当も、自分でしようとする気持ちやみんなで食べることの楽しさを大切にしながら、教師と一緒に支度等にも安心して取り組めるように援助していきます。



- <4歳児> ○気に入った遊具や楽しそうな場を見付け、同じ場にいる友達と触れ合って遊ぶ。
- 身近な動植物に親しみを持ち、触れたり世話をしたりして、自分なりにかかわる。

砂場でごちそうを繰り返し作ったり、音楽を自分でかけて動いたりするなど、それぞれの幼児が自分のしたいことを見付けて遊んでいます。周囲のことにも少しずつ興味が広がってきて、教師や友達と一緒にかくれんぼをしたりお面をかぶって動いたり、楽しそうな場に加わる姿も見られるようになってきました。連休を挟み、緊張や不安を感じることもあるかと思います。4月にしていた遊びをしたり、教師と一緒に体を動かしたりして、自分のしたいことを楽しんだり、同じ場にいる友達と触れ合ったりできるようにしていきたいと思います。そして、一日の流れを思い出し、身の回りのことを自分でしていけるように援助していきます。

また、学級にいるモルモットやインコに触ったりエサをあげたりすることで生き物に親しみをもつ姿が見られます。今月は、花の種や夏野菜の苗を植え、生長に興味をもって水やりをしたり、収穫を楽しみにしたりできるようにしていきます。



- <5歳児> ○自分なりのめあてをもって遊んだり、自分たちで生活を進めたりする楽しさを感じる。
- 身近な自然に親しみをもったり、体を動かす心地よさを味わったりする。

保育室と園庭を行き来して、興味のあることに自分から関わって遊ぶようになり、2階での生活にも慣れてきました。一日の見通しをもったり、動物当番に取り組んだりするなど、自分たちの生活を進めていこうという気持ちがもてるように援助していきます。また、興味をもった遊びを繰り返す中で、めあてをもち、自分なりに工夫したり、試したりして遊ぶ楽しさを感じていけるように援助していきます。

さらに、砂や泥、園庭の自然に関わってのびのびと遊んだり、新宿御苑遠足に出かけたり、学級全体で鬼遊びをしたりして、戸外で遊ぶ心地よさを味わえるようにしていきます。